

北海道建設新聞

開運橋の工事現場見学会

宮坂建設などJV 標茶小児童招き

【釧路】釧路土現所管の3・4・1標茶町駅前中央通開運橋架換上部を担当する宮坂建設・北野組・豊松吉工業共同体は25日、標茶



小学校の4年生から6年生31人を招いて現場見学会を開いた。児童らは実際に桁の上まで上がり、クレーン作業を目の当たりにして現場スケールの大きさに驚いたようだった。

最初に、岡春男釧路土現弟子屈出張所長が「開運橋は今から17年前に初めて架けられ、以後、何度かの架け換えを経て、今のようになり、今、度々、町民の思い出が詰まった橋です。皆さんは町民として初めて開運橋を渡ることになると思います。このことはお父さん、お母さんに自慢してください」とあいさつ。

共同体の主任技術者を務める高橋将人さんは、開運橋ができるまでの工程をイラスト入りの分かりやすい冊子を使って教えた。

その後、棟方聡現場所長の案内でクレーン作業など

児童たちは現場スケールの大きさに驚いていた

を見学。最後は桁上で、児童たちの母校を背に記念撮影を行った。

新しくできる開運橋は橋長202・4mで6径間連続鋼床版桁。工法はベント併用クレーン架設で、現在はA2からP2までの桁架設を進めており、工期は11月10日までとなっている。